

# ■ コミュニティバス利用促進策について

【資料4】

## 1 平成26年度第1回地域公共交通会議

要 望	方 法	メリット	デメリット	方 向 性
①敬老の日に高齢者へPR	・利用者数の多いバス停などで、一目で行先がわかるチラシの作成・配布	・認知度向上及び利用者数増加	・チラシ作成の事務負担	・敬老会だけでなく、広く配布できるようにチラシを作成する。
②キリンビールの来場者にPR	・JR枇杷島駅にキリンビールまでの行き方を掲載した看板等を設置	・PR効果有	・運賃収入の減少 ・特定企業の支援	・特定企業の支援やキリンビールとの調整等課題あり。 ⇒まずは、これらの課題解決を図りたい。
③健康体操の団体にチラシ等を配布	・一目で行先がわかるチラシを持参し説明	・認知度向上及び利用者数増加	・チラシ作成の事務負担	・健康体操団体だけでなく、広く配布できるようにチラシを作成。
④JR枇杷島駅にて、清洲城やヨシヅヤといった、目的地のみを明記した看板等の設置	・看板等の作製 (水辺の散策路看板を改修)	・利便性の向上	・ルート改正ごとに水辺の散策路看板を改修	・水辺の散策路の看板は、散策コースを知ってもらうことを主な目的としている。 ⇒あしがるバスの目的地等を載せるか否かは、十分に検討したい。
⑤ヨシヅヤ等、ショッピングセンターでの割引	・割引チケットの作成 ・ショッピング施設との連携	・利用者数の増加	・運賃収入の減少(運賃負担)	・市内には商業施設が多数あり、すべての施設で割引を実施するのは難しい。 ・あしがるバス利用者のほとんどがヨシヅヤで、特定企業の支援もできないため、十分に検討したい。
⑥マスコットキャラクターを使ったPR	・イベントにバスを出展 ・きよ丸、うるるんによるPR	・人気向上	・事務負担	・平成26年10月12日(日)の信長まつりにて、バス展示等を予定している。
⑦あしがるバスの試乗	・月1回実施日を決定	・PR効果有	・車両の手配 ・事務負担	・通常運行車両との差別化が困難で、利用者の混乱を招くおそれがあるため、実施は難しい。
⑧粗品の贈呈	・きよ丸、うるるん等の人形の配布	・PR効果有	・経費増加	・乗車による粗品の贈呈は難しいが、イベント等でポケットティッシュの配布は可能である。 (10月12日の信長まつりにて配布予定)
⑨バス車内で子供の絵を紹介	・学校教育課との連携 ・子育て支援課との連携	・バスに愛着 ・PR効果有	・他部署との連携をしっかりと実施	・他部署と協議し、募集方法等を整理したうえで実施したい。
⑩地域公共交通会議委員等の協力によるPR	・市として実施したいこと、委員に実施してほしいことを明記 ・委員に提案を照会	・委員の積極的な関わり	・多岐にわたる提案の精査	・平成26年度第1回専門部会にて照会の予定である。